

国際ロータリー第 2500 地区第 6 分区

帯広東ロータリークラブ会報



2014-2015 年度
帯広東ロータリークラブ
会長 西田 重人
幹事 深澤 佳世子
メディア委員長 加藤雄樹

「和 気 藹 々」

第1460回例会

平成27年2月13日(金) 於 ホテル日航ノースランド

■創立: 1984年6月15日 ■認証: 1984年6月18日 ■例会: 毎週火曜日 12:30~13:30
■事務局: 帯広市西3条南9丁目 帯広経済センタービル4F Tel.0155-25-7347 ■会場: アパホテル帯広駅前



2014-2015 年度
国際ロータリーテーマ
【ロータリーに輝きを】

2014-2015 年度国際ロータリー会長
ゲイリー C.K.ホアン

ガバナーテーマ
【誠 心 誠 意】

国際ロータリー第 2500 地区 ガバナー
奥 周 盛

◎起 立 帯広北 R C 及川副 S A A
◎点 鐘 帯広北 R C 細川会長
◎開会宣言 帯広北 R C 及川副 S A A
◎ロータリーソング

奉仕の理想
◎講師入場
◎ゲスト紹介 帯広北 R C 細川会長
◎会長報告 帯広北 R C 細川会長

会務報告

帯広北 R C 石岡幹事

特別講演: ジャンチブ・ガルバドラッハ 様
(米山記念奨学生 O B)
坂下 博康 様 (東京北 R C)
(米山記念奨学会前事務局長)

◎委員会報告 (省略)

◎ニコニコ献金 (省略)

◎出席報告 (省略)



①帯広東 R C 通常夜間例会

2月17日(火) 18:30~

②RI2500地区 I M

3月14日(土) 受付 14:00~

開会式 14:30

特別講演 15:20~

閉会式 17:00

懇親会 17:30

アンコールワットを掘る

上智大学教授 アジア人材養成研究センター所長

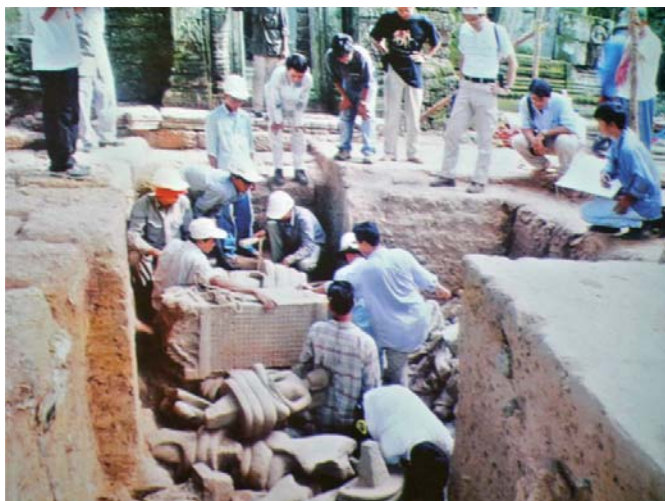
石澤 良昭 様



カンボジアの村々を歩き、遺跡を巡りながら、私はふと立ち止まって自問する時があります。「自分は何につき動かされて歩いてきたのだろう」と。1961年大学卒業間近に、外国語研修で立ち寄ったカンボジア、以来50余年、それは一言で言えるものではありませんが、アンコール・ワットに関心をお寄せ下さる皆様の思い

浮かべるとき、次の3つの願いが自分の中にあることを感じています。

①「アンコールワット研究」の報告は分かりやすく



上智大学アンコール遺跡国際調査団(ソフィアミッション)がこれまでに取り組んできたアンコールワット研究そのものは、多くの謎ばかりで、わからない歴史が知的好奇心をかきたてております。あのお寺は何か、石造大伽藍、約80メートルに及ぶ大回廊の浮彫、笑みをたたえた女神たち、新舎の装飾など尽きせぬ魅力があり、当時のカンボジアの人たちの生命の営みの中で、また、長い歴史展開の中で、それらはどんな意味があったのでしょうか。私は、それらの謎を普通の言葉で語り、皆様に分かっていたきたいと願ってきました。私の碑刻文解読や歴史の一部解明を含めて、学問や研究成果というもの、いつもそのような形で皆様に分かっていたき、現地カンボジア還元されていくべきものと考えております。

②「生きる喜び」に溢れるカンボジア

たわわに実った稲穂、ゆったりと流れる時間、村の小寺で捧げられる敬虔な祈り、カンボジアではこんな日常生活が続いていました。村では生きる喜びに満ち溢れています。みんな意気軒昂なのです。日本人から見ると、貧しいのになぜそんなに元気なのか、合点がいきません。

経済的に言えば貧困ですが、村人は比較的低い消費量で高い満足を感じているのでしょう。人々は圧迫感や緊張感なしに毎日を送り、「悪いことをせず、善きことを実践し」という仏教の教えを実行しているように思います。

どこでも一般的に物質的資源には限りがあるのだから、自分が必要とするわずかな資源で満足感を覚える村人は、資源をたくさん使う人より相争うことが少ないわけであり。その物差しが決して物質主義ではないのです。

「生きる喜び」は昔も今も変わりません。古代中世カンボジアでは、地域で取れる資源を使って最も合理的な日常生活が営われておりました。余剰資源は、功德として寺院建立に捧げられました。

③「ソフィア・ミッション」は困っている人を見捨てない。

私たち調査団はソフィア・ミッションを实践する活動部隊であります。上智大学は2013年に創立100周年を迎えました。その精神は「他者のため、他者と共に生



きる(Men and Woman for Others, with Others)」であります。ソフィア・ミッションは「他者」であるアジアの「隣人」のところへ出かけて行き、「仲間」となって一緒に奉仕活動を実施しております。カンボジアでは1970年から24年間にわたり内戦が続き、虐殺が150万人に及び、人々



はすべてを失い、誰もがゼロからの再出発でした。ソフィア・ミッションは困っている人を見捨てない活動です。私たちは内戦中の1980年からカンボジアへ出かけ、現地において人材養成活動を実施し、カンボジアの皆さんが勇気と希望を取り戻すお手伝いを致しております。特別に「カンボ

ジア人によるカンボジアのための、アンコール・ワット修復」を掲げ、上智大学大学院は優秀なカンボジア人留学生を計画的に受け入れました。すでに、学位取得者は18名(博士7名、修士11名)に及び、現在も続いております。アンコール・ワットはカンボジア民族のであると同時に自信を取り戻すエネルギー源でもあります。ソフィア・ミッションは、アジアの仲間と一緒に活動し、21世紀のアジア市民を育てるという目標に向かって、ささやかですが、奉仕活動を続けております。

次週のプログラム

社会奉仕委員会

【日本の障害者の処遇が大きく変わる】

十勝障がい者支援センター 理事長 門屋 充郎 様